

高品質の人事労務サービスで 横浜の中小企業を支える存在に！

横浜賃金労務管理
オフィス
社会保険労務士
阿部 毅氏



横浜・関内に事務所を構える「横浜賃金労務管理オフィス」。代表の阿部 毅（あべ・たけし）氏は、大手百貨店の販売マネージャーやバイヤー職、労働組合専従を経て、30 代半ばに退職。これまでの仕事を通じ「会社づくりはヒトづくり」と強く感じたことから、社労士の道を選びました。ゼロからのスタートながら、現在では約 20 名のスタッフを擁し、横浜を中心とした中小企業の人事労務管理を支える存在に！ 異業種から転身した経緯や事務所の強み、組織運営で大切にしていることなどをお話いただきました。

「人が動けば企業が変わる」百貨店時代に得た気付き

「お客さまがワクワクする空間を作る」そんな想いを持ちながら、前職は百貨店にて、販売職（後にマネージャー）やバイヤー職として働いていました。売上は、“その日の現場の空気” で大きく変わります。従業員がやる気に満ちているときは、自然とお客さまの反応も良い。逆に、ほんの少しでもモチベーションが低下していると、それが数字に表れます。その中で、「企業にとって『ヒト』がいかに大切か」を実感するようになりました。

30 代で労働組合専従となり、多忙ながらも充実した時間を過ごします。賃金制度や福利厚生改革などにも携わり、組織づくりに関わる面白さを知りました。同時に経営側と従業員側、どちらの立場も気持ちも理解したうえで、制度を作る重要性も感じます。そんな経験から「組織には従業員が楽しく、やる気を持って働ける環境が必要。そこに携わる仕事がしたい」という答えにたどり着き、13 年間勤めた百貨店を退職することを決意！ 35 歳のときでした。

「ヒトづくりを仕事にしたい」から社労士の道へ

実は当時、私は「社労士」という仕事があることを明確に知りませんでした。しかし自分がやりたいことに直結するため、まずは資格取得のために学ぶ日々を過ごします。何とか 2 年後に資格を取得し開業となりますが、そこから予想以上に大変でした。

当然ながら、ただ待っているだけでお客さまが来ることはありません。チラシを作成してポスティングを行ったり、人生初の飛び込み営業を試みたり……。中でも力を入れたのは「給与（賃金）改定」「労務管理」などのセミナーを開催すること。これまで自身が従業員として働く中で経験したことや、「会社づくりはヒトづくり」（良い会社には必ず良い仕組みがあり、良い人材がいる）といったことも伝えてゆきました。

“自社での実践”を提案できる！

社労士事務所としての強み

やがて、交流会などで出会った経営者や士業の方からも依頼が来るようになり、事務所にも人が増えます。開業当初に掲げた目標は、「10 年以内に 10 人と一緒に働く」。もちろん社労士として個人で業務を行うこともできましたが、私は早く組織で仕事がしたいと考えていました。

そこにこだわった大きな理由は、「自社の事例をお客さまに提案できる」ということ。「こうすれば従業員が定着しやすくなる」「弊社もこういったことで悩んでいた」といった経験を、リアルな形で届けられる。法律だけでは解決できない人の課題に向き合うことにこそ、社労士の価値があると感じたのです。

もう一つの理由としては、前職の経験から“チーム力の大事さ”を痛感していたこと。各々が得意分野で力を発揮すると、結果的にお客さまに良いサービスを提供できます。とてもシンプルなことですが、社労士事務所ではその形が最善だと思ったのです。

実際に弊社では、通常の手続き業務を行う窓口担当者に加え、「就業規則」「労務相談」「キャリアコンサルティング」とそれぞれの“プロ”が受け持つスタイルをとっています。単なる手続き代行ではなく、お客さまにとって外部にいるチームメンバーのような存在になる。これが大きな強みにもなっています。

将来的には「横浜で最も質の高い社労士事務所」になりたいですね。大きさではなく、サービスの中身で評価される事務所。メンバー全員が顔となり、次の世代にもバトンを渡せるような組織に育ててゆきたいです。

（取材・文／小林 真由美）

さらに詳しい
記事が読める
LTR ビト番外編
はコチラから
→→



阿部氏の事
務所 HP は
コチラから
→→

